

【第5次津島市総合計画】施策評価シート(2023年度)

施策コード	42
-------	----

まちづくりの方針	4 交通・都市基盤・水環境
施策	2 公共交通
施策のめざす姿	それぞれの目的や行先に応じて、最適な移動手段で、安心して快適に移動することができるようになっていきます。

まちづくり指標	現状値 (2019年度)	実績値					目標値	
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度	2030年度
公共交通の利便性の向上に満足している市民の割合(%)【企画政策課】	15.2	—	—				20.0	28.0
ふれあいバスを利用している市民の割合(%)【企画政策課】	21.5	—	—				25.0	30.0

施策の方針	担当課	実績・成果
		今後の方向
1 交通ネットワークとモビリティサービスの充実【重点】	企画政策課	公共交通会議において、公共交通事業者等と情報共有を図ることができた。 生活に必要なまちの機能を結ぶ移動手段のネットワーク化の推進のため、関係機関等と連携を行う。
2 コミュニティバスの利用促進【重点】	企画政策課	新型コロナウイルスの感染拡大により、巡回バス利用者はピーク時より減少しているが、こどものお祭りギャラリーバスの期間限定運行等により利用促進を図ることができた。また、バスロケーションシステムの活用等により利便性向上を図ることができた。 巡回バス車両の更新時期を見据え、利用実態調査等を実施することにより、利用者のニーズに合わせた運行体制を検討する。
3 広域的な交通ネットワークの形成	企画政策課	JR永和駅に設置した巡回バスの停留所の利用者数は増加しており、市外への移動に対するニーズにこたえることができた。 海津市のコミュニティバスが津島駅に乗り入れることも検討されており、引き続き関係機関と連携しながら、快適な公共交通サービスの提供に努める。

総括評価	施策のめざす姿の達成状況	新型コロナウイルスの影響により、巡回バス利用者はピーク時よりも減少しているが、最もその影響が大きかった令和2年度と比較すると回復傾向である。巡回バスは、市民の移動手段としてなくてはならないものであり、バスロケーションシステムの活用等により利便性向上を図っている。	評価 B
	施策のめざす姿の達成に向けて今後必要なこと	市民が安心して快適に移動することができるよう、巡回バスの更なる利便性の向上が求められている。そのため、巡回バス車両の更新時期を見据え、利用実態調査等を実施して利用者や市民のニーズを把握し、最適な運行形態を検討する。	方針 継続